

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書8章1～3節＞

1 「すぐその後」(1)に注目。赦された「罪深い女」の喜びは大きい！

今日の箇所直前の「罪深い女」が深く理解したことは、神様はどんな罪人をも赦し、「私と共に新たに生きる者となれ」と呼びかけて下さっているということでした。そして、そのことを女はイエス様によって知らされたわけです(7:48-50は重要)。だからルカは、「すぐその後」(1)と言い、同じようにイエス様によって新たに生きる力を与えられた人々(2-3)がイエス様の伝道の旅に参加し、これを支えたのだと語るのです。12弟子と彼女たちがイエス様の旅に同行したことは決して普通ではありません。それだけに、彼らが見出したものについて思い巡らしておく必要があります。石工が何百年もかかる大聖堂の建設のごく一部にかかわる時、自分の仕事が神様の業に参与しているのだと思いながら働く者と、ただ糧を得るためだけにしている者との違いは大きいでしょう。12弟子と彼女たちは前者の石工たちと同様の思いを持っていたのではないのでしょうか。私たちの人生にも同様のことが言えると思います。特別か普通か、偉大か慎ましいかではなく、私たちを造り、赦し、守り、与えて下さる神様を覚えながら生きる人生であるかどうかの違いです。

2 主イエスに同行し、主イエスを支える集団 主の教会の原型！

「彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた」(3)。「多くの罪を赦された」(7:47)ことに感謝してイエス様を物質的な面で喜んで支えたのでしょう。しかしその前に、イエス様は自分の生活のために自分の力をお用いにならなかったことを考えておきたいと思います。

「私たちは何度も繰り返して主イエスの御生涯、御業、受難と死に、時間をかけて静かに思いを寄せなければならない、神が何を約束され何を成就されたかを悟るために。主の御苦しみの中に私たちの喜びが、主の死の中に私たちの命が隠されていることは確かである。私たちが皆、私たちを支えてくれる一つの交わりの中にあることは確かである。」(ローズンゲン:2020年4月10日のボンヘッファーの祈り)

イエス様の貧しさによって私たちが豊かにされたのです！ 主イエスによる恵みの大きさを覚えて主と共に旅し、主を支え、福音を宣べ伝えるために共にある集団。私たち教会の目指すべき姿ここにありです。